

# CFOによる景気見通しに関する グローバル調査のご紹介

- Global Business Outlook -

デューク大学とCFOマガジン  
による共同調査から

グローバル・ビジネス・アウトルック・サーベイ・ジャパン

# 本サーベイのご紹介

- グローバル・ビジネス・アウトルック・サーベイ
  - 米国、欧州、アジア(除く日本)、南米で行われている四半期ごとのサーベイ(アンケート)調査
  - 本年12月より、日本も参加の予定
  - 日本では、日本CFO協会、KPMG CFO Clubのご協力を得て、日本の4つの国立大学の研究者チームが実施を担当
  - 多数の日本企業のCFO(最高財務責任者、財務担当役員)の参加に向けて準備中

# 景気見通しに関するグローバル調査

- 四半期調査
  - 1996年7月～ (66連続四半期)
  - デューク大学とCFOマガジンによる共同調査
- 回答者はCFOマガジン購読者とデューク大学が独自に募った回答者
  - 最高財務責任者、財務部長、財務課長など財務担当者が中心
- グローバル調査
  - アメリカ、ヨーロッパ、アジア、ラテンアメリカで実施
- 毎回、800～1000の回答をベースに結果を集計
- 政府・マスコミなどで結果を四半期ごとに活用
  - 政府関係: 連邦政府、ヨーロッパ中央銀行、経済諮問委員会など
  - マスコミ関係: テレビ、Wall Street Journal、Financial Times、Business Week、ナショナル・パブリック・ラジオなど

# アンケート内容

## ■ 経済見通し

- 雇用計画、設備投資、収益動向、CFOの楽観度(将来見通し)、懸念事項など

## ■ その時々話題となるテーマ

- 大量の現金保有の目的
- 金融危機の影響
- 欧州における経済状況の影響
- 金融市場への政府介入の影響
- 原燃料コスト上昇の影響 など

# CFOは将来を予測できるか？

## 1) CFOの楽観度は的確

- CFOの楽観度は様々な将来の指標と強い相関—米国の例
  - 利益 (翌期利益と43%相関)
  - 雇用 (翌期雇用と81%相関)
  - GDP (翌期GDPと78%)

※CFOへの質問は「自国経済に対する楽観度」と「自社の業績見通しに対する楽観度」の2種の質問を行っており、数値は「自社の業績見通しに対する楽観度」との相関を表す

出典: [www.cfosurvey.org](http://www.cfosurvey.org)

# なぜCFOにアンケートを行うのか？

## 2) CFOの楽観度は様々な経済指標の先行指標となる

- CFOの楽観度と経済指標の相関係数(米国)

- ISM製造業景況指数(75%、1四半期先行)
- 全国産業審議会(CB) 消費者信頼感指数(86%、2四半期先行)
- ミシガン大学消費者信頼感指数(81%、1四半期先行)
- UBS/Gallup投資家信頼感指数(49%、2四半期先行)

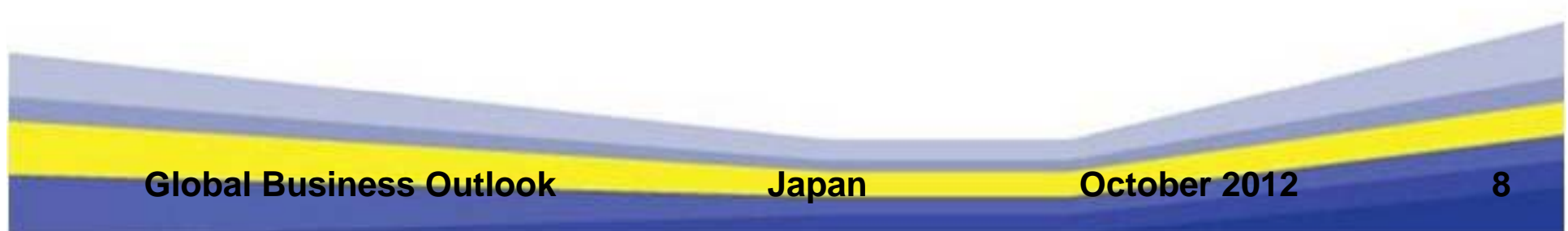
※( )内の数値は「自社の業績見通しに対する楽観度」との相関を表す

# 2012年9月の調査結果（概略）—米国—

- CFOの楽観度は、3期連続低下傾向
- 設備投資は低下傾向
  - 世界経済が全体的に弱含みのため、投資機会が減少
  - 連邦準備銀行の低金利政策は、企業の設備投資にほとんど影響なし
- 雇用は安定傾向
- 欧州の経済危機、アジアにおける成長鈍化を懸念

# 2012年9月の調査結果（概略）－その他地域－

- ヨーロッパのCFOの楽観度は低下傾向
  - － 設備投資、雇用の指標もマイナス傾向
- アジアのCFOの楽観度は全体的に低下傾向
  - － しかし、米国、ヨーロッパに比べ高い水準を維持
  - － 雇用、設備投資の指標に低下傾向がみられるが、米国やヨーロッパに比べ高水準
- ラテンアメリカのCFOの楽観度は若干の上昇がみられるが、設備投資、雇用の指標は低下傾向





# 懸念事項(2012年9月調査) —米国—

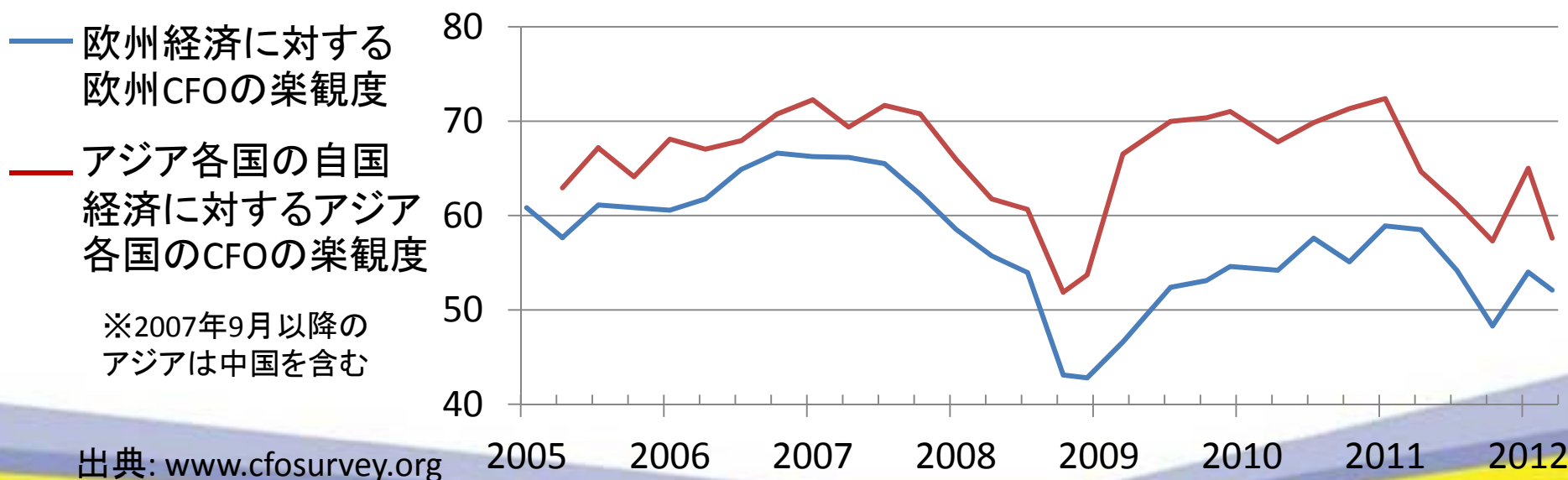
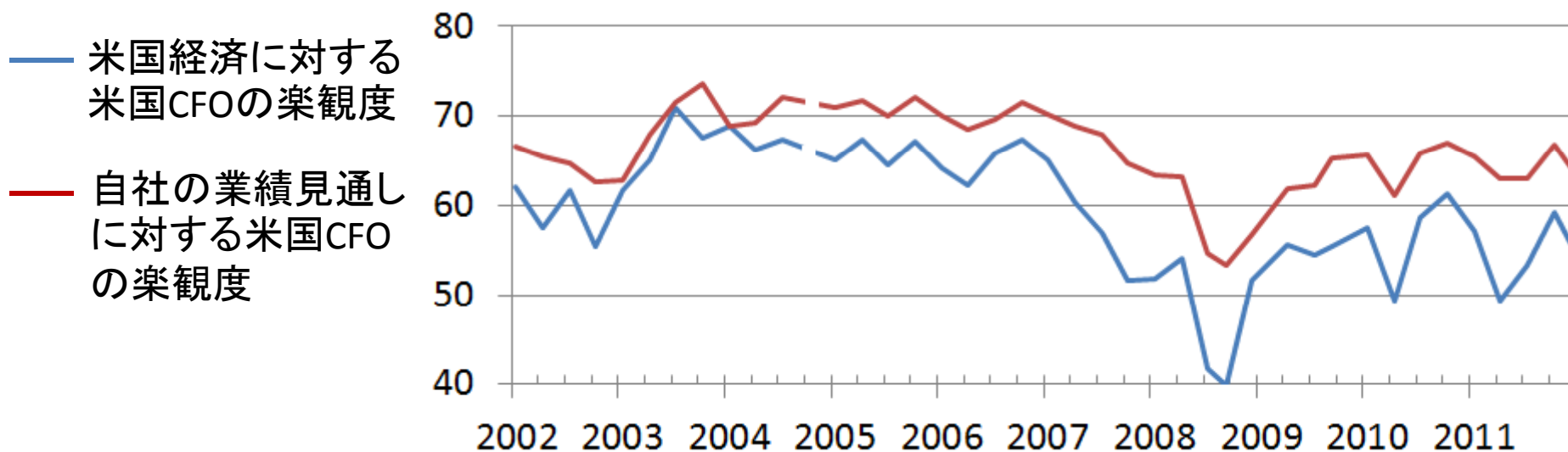
## 外的要因:

- 個人需要の動向
- 連邦政府の政策および検討課題
- 競合との価格競争
- 国際金融の不安定性
- 欧州の債務問題
- 新興国の成長鈍化

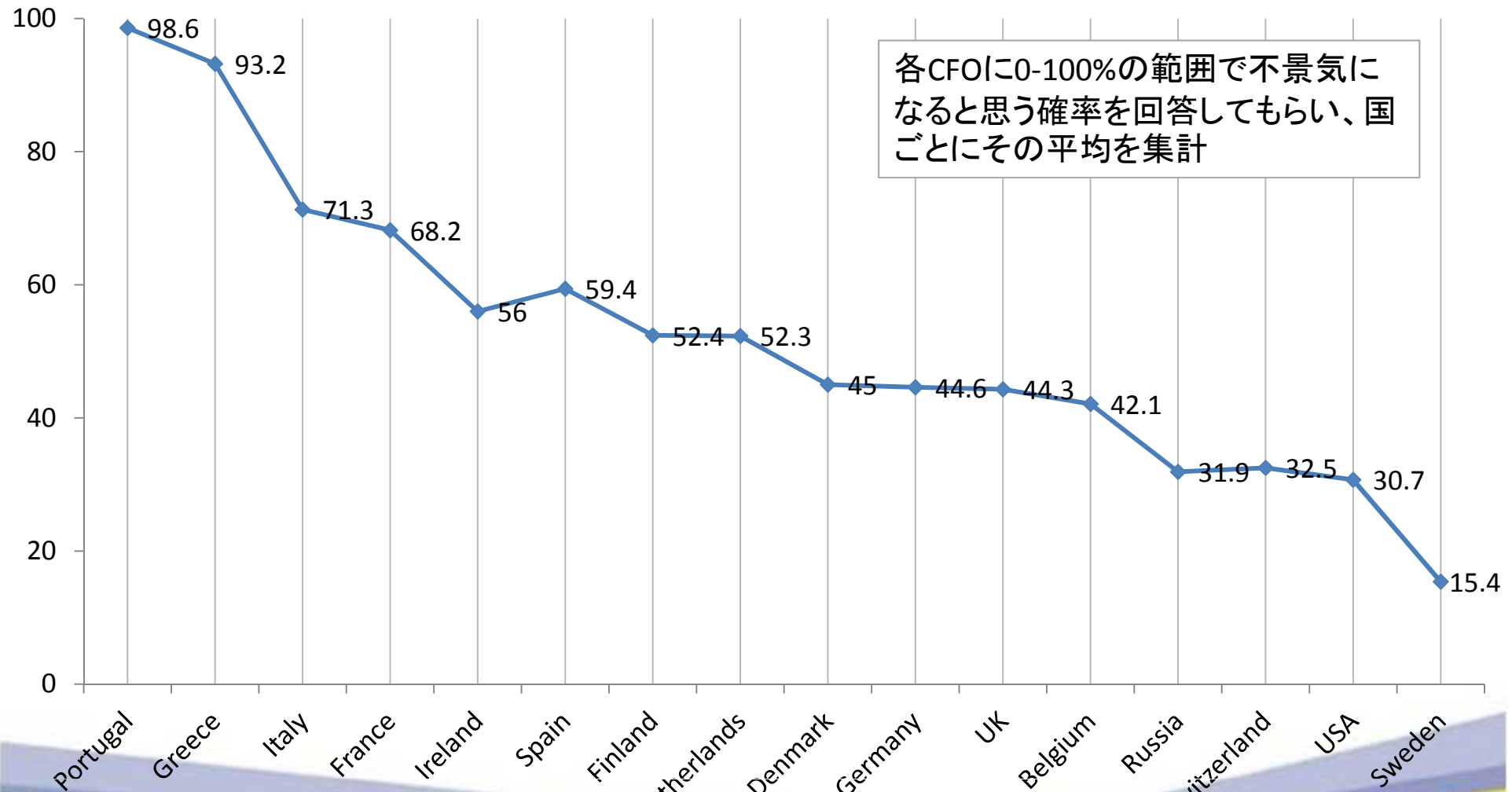
## 内的要因:

- 収益性の維持
- 業績見通しの難しさ
- 有能な社員の継続雇用および新規雇用
- ヘルスケアコスト
- モラル・生産性の維持
- 運転資金の管理

# CFOの楽観度



# あなたの国がこの先6か月以内に不景気になる可能性は？ (2011年12月調査より)



出典: [www.cfosurvey.org](http://www.cfosurvey.org)

# 日本のサーベイ参加とそのメリット

- 本年12月のサーベイから、日本も、日本CFO協会、KPMG CFO Clubのご協力を得てサーベイ参加へ
  - 日本では、名古屋大学、大阪大学、東京工業大学、神戸大学の研究者チームがサーベイ実施を担当
- サーベイ参加と各回答者にとってのメリット
  - 景気見通し、経営者のセンチメント、企業政策の現状把握、地域別、国別の相違のタイムリーな認識が得られること
  - 調査を通して得られた情報をもとにした研究結果をセミナーなどを通して理解し、実践的な経営への手がかりを得ること
- 日本から多くの参加があれば、世界経済の見通しについてバランスのとれたものになる

# 日本における第1回のサーベイのスケジュール

- サーベイのスケジュール
  - 11月20日:サーベイ開始(メール配信開始)
  - 12月7日:サーベイ終了
  - 12月12日:グローバルレポート配信(予定)
  - 12月17日:日本語版レポート配信(予定)
- サーベイへのご回答に関する情報の管理
  - 結果の公表については集計データのみとします。
  - 御社および回答者ご本人が特定されることはありません。
  - 御社および回答者ご本人を特定する情報は第三者には一切開示いたしません。

# (ご参考)調査参加国 2012年6月調査

( )内はアンケート回答数

## ■ アメリカ (441)

## ■ ヨーロッパ (97)

- スウェーデン(11)、オランダ(9)、イギリス・ベルギー(各8)、スペイン・ギリシャ(各7)、スイス(6)など

## ■ アジア (222)

- 中国(59)、インド(49)、シンガポール(20)、マレーシア(17)、香港(16)など

## ■ ラテンアメリカ (37)

- ブラジル(16)、ラテンアメリカ(9)、アルゼンチン(4)など

# 日本におけるサーベイ実施チーム

- 日本におけるサーベイは、以下の研究チームが、日本CFO協会と、KPMG CFO Clubのご協力を得て進めています。
  - 加藤英明（名古屋大学・経済学研究科・教授）
  - 山本達司（大阪大学・経済学研究科・教授）
  - 井上光太郎（東京工業大学・社会理工学研究科・教授）
  - 山崎尚志（神戸大学・経営学研究科・准教授、Duke大学・経営大学院・客員准教授）
  - 奈良沙織（東京工業大学・社会理工学研究科・助教）
- お問い合わせ：[cfosurveyjp@gmail.com](mailto:cfosurveyjp@gmail.com)